授業科目	臨床実習Ⅱ				
担 当 者	大西環・井上直哉・川畑武義・福田信二郎・大根茂夫				（オムニバス）
専攻(科)	言語聴覚専攻科	学　　年	1年	総単位数	5単位
		開講時期	後期	選択･必修	必修

■ 授業目的・内容

Ⅱ期臨床実習（評価実習）　設定期間：5週間

■ 到 達 目 標

臨床実習Ⅰ及び学内で学んだ検査手順や評価に関する知識を基に、指導を受けながら言語聴覚療法における検査及び評価が出来るようになる。また、指導援助プログラムの立案について考えることが出来る。

■ 授 業 計 画

言語聴覚士としての役割を理解し、職務に対する倫理や基本的な姿勢など言語聴覚士としての適性を養う。
実習協力施設、病院様にて、ご指導いただく SV の指示、監督のもと、患者（児）様に検査等を行い、その結果を分析して他の所見と併せて総合評価を行う。さらにその評価に基づき、指導援助プログラムを立案する。
実習日誌を毎日作成し、SV から与えられたレポート課題などをする。
「実習のふり返り」を作成する。
症例報告書を作成する。
詳細については、後日配布の「臨床実習の手引き」を参照すること。

■ 評 価 方 法

① 実習ガイダンスの出席状況と取組み
② 実習の進捗状況・実習への取り組み具合
③ SV からの種々の情報
④ SV 記載の成績表・所見
⑤ 症例報告書
⑥ 実習日誌
⑦ 出席状況
⑧ 実習報告会に向けての取り組み
①～⑧を総合し、専攻科主任が評価する。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

事前に実習ガイダンスを行う。内容について十分復習し、各自練習した上で実習に臨むこと。
実習終了後は、実習で把握した自分の課題にとりくみ、次の実習に向けて準備すること。

■ 教　科　書

書　名：言語聴覚療法臨床マニュアル
著者名：小寺富子監修
出版社：協同医書出版社

書　名：言語聴覚士のための臨床実習テキスト　成人編
著者名：深浦順一、為数哲司、内山量史
出版社：建帛社

書　名：言語聴覚障害診断　－小児編
著者名：大塚裕一、井﨑基博
出版社：医学と看護社

■ 参考図書

■ 留意事項

出席日数が規定の４/ ５に満たないものは、科目履修の認定はされない。
不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。